

単元名 関わりの中で「字のない葉書」(第2学年) 全5時間計画

単元のねらい

登場人物の言動に着目して心情を読み取る活動を通して、人物像について考え、作品に込められた思いを解釈することができる。

単元構想の意図

本単元では、登場人物の言動から読み取った心情を基に人物像について考え、随筆に込められた筆者の思いを主体的に読み取ることなどをねらいとしています。つかむ過程では、中心となる登場人物に読み取りの焦点を当てることで、読み取りの視点を明確にします。追究する過程では、登場人物の言動に着目して自ら問いを作ることで、解釈の根拠を叙述に求めながら主体的に読みを進められるようにします。また、中心人物に関する叙述を場面ごとに比較することで、そこに描かれている姿の相違に気付かせ、そこに込められた筆者の思いを考えさせます。まとめる過程では、学習前後の感想を読み比べる活動を通して自身の変容を自覚させるとともに、叙述と解釈を意識した読み取りを次の単元でも生かしていこうとする意欲につながるように構成しました。

過程

主な学習活動

1. 単元の課題を把握する

- 範読を聞きながら、中心人物について考えさせる。
- 単元の課題をつかむ。

随筆に込められた筆者の思いを考えよう。

- 既習事項を想起する。
- 学習の見通しをもつ。

【既習事項】

- ・ 行動から心情を読み取る。
- ・ 人物像について考える。

読み取る視点を明確化

範読を聞きながら、中心となる登場人物について考えさせ、その人物に読み取りの焦点を当てることによって、読み取りを行う際の視点を明確にし、活動に取り組みやすくする。

単元の課題の設定

本単元でのゴールを示すことで、ゴールに向けて各単位時間の学習が繋がっていくことを意識させる。また、生徒とのやり取りの中で単元の課題を設定することで、課題を明確にするとともに、課題解決に向けての意識を高める。

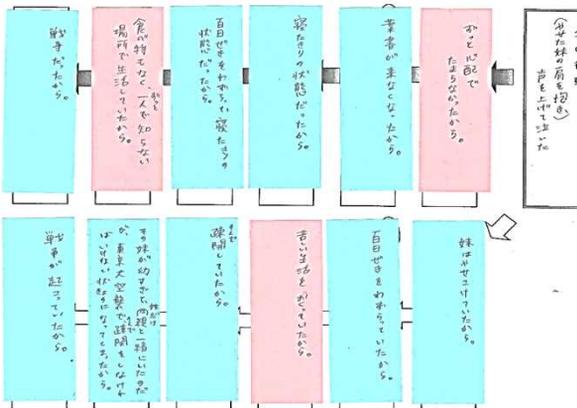
既習事項の想起

学習課題解決のために、既習事項のどのようなことが生かせるかを想起させることで、学習のつながりを意識させる。

つかむ(2)

2. 課題を追究する

- 中心人物の言動に着目して自ら問いを作り、読み取ったことを基に父の人物像について考える。



【青：叙述、赤：解釈】

言語活動の工夫

叙述を基に自ら問いを作り、読み取りを進めていくという手立てを繰り返し、読み取りを進めていくことで、各単位時間の活動に取り組みやすくするとともに、主体的に読み取りが進められるようにする。また叙述を基にした解釈などを前回と比較することによって、学びの向上を自覚させる。

叙述を基にした解釈の視覚化

叙述と解釈を付箋の色を分けて視覚化することによって、叙述と解釈をそれぞれ明確に意識した読み取りができるようにする。また、解釈は叙述を基にして行うことを意識させる。

効果的に話し合いを進めるための工夫

読み取ったことを付箋に書かせることによって、話し合いの際に、付箋を操作して、意見を組み合わせたり、つながりを意識したりできるようにする。

単元を通した学びの自覚と共有

初発の感想と、登場人物の人物像や随筆に込められた思いを学習した後の感想を読み比べることで、読みの変容を感じられるようにする。また、初発の感想と学習後の感想を読み合う活動を取り入れることで、多様な考えに気付けるようにする。

学んだことの一般化

単元全体を振り返りながら、身に付けた資質・能力が今後どのような場面で生かせるかを考えることで、本単元の学習がここで終わるのではなく、次の単元で、叙述に着目することや内容を解釈することなど、学びが繋がっていくことをイメージできるようにする。

追究する(4)

3. 単元を振り返る

- 初発の感想と学習後の感想を読み比べる。
- 単元で学んだことを確認し、学んだことを一般化して理解する。
- 単元全体を振り返り、自分の言葉でまとめる。

まとめる(2)

指導例：『字のない葉書』（第2学年 第1時）

- 1 教材文と出合い、単元の課題を設定する。
 - 随筆文について復習し、現代文の随筆を読むことを通して筆者の思いを考える学習をしていくことを知る。
 - 範読を聞き、登場人物の中で中心となるのは誰かを考える。

単元の課題 随筆に込められた筆者の思いを考えよう。

- 2 めあてをつかむ。
 - 学習課題を解決するために、どのようなことを読み取っていけばよいかを考える。
 - T：今回は、随筆に込められた筆者の思いを考えるのですが、人が考えていることって分からないよね。
では、この単元の課題を解決するためには、どのような読み方をしていく必要があるのだろう。
 - S：登場人物についていろいろと読んでいけば良いと思います。
 - S：登場人物の心情を読み取っていけばよいのかな。
 - S：人柄とか人物像？
 - S：登場人物の言動に着目しました。
 - S：それ以外に情景や場面に着目したり、変化を見付けたりしたな。
 - T：なるほど。みんなは、もう自分たちでいろいろなことに着目して読み取りができるね。

- 3 学習の見直しをもつ。
 - これからの学習の流れを整理し、今後の学習活動を確認する。
 - T：二つの場面で、それぞれ父に着目していきます。父の言動に着目して心情を読み取り、そこから人物像について考えます。その考えた人物像を比較して、筆者の思いを読み取っていきます。
 - 本文を通読し、初発の感想を書く。

- 4 本時のまとめ・振り返りを行う。
 - 本時のまとめを行う。

まとめ 登場人物の行動に着目して心情を読み取り、人物像を考えることで課題解決をしていく。

○これから、「字のない葉書」でどのような学習をしていくのか、また、どのようなことを頑張りたいかを振り返りシートにまとめる。

振り返りシート

『字のない葉書』 二年 組 番 氏 名

これから読む『字のない葉書』の場面を思い出して、何を切して学習を進めていきますか。

① 場面

② 心情

③ 人物像

④ 筆者の思い

⑤ 疑問

⑥ 気づき

⑦ 振り返り

指導のポイント

教材文の特徴をつかむための既習事項の想起

- 既習した文章形態の特徴を想起させることで学習内容の見当をもたせ、興味・関心を高める。

学習内容の見直しをもたせる工夫

- 本単元でのゴールを示すことで、そこに向けて各単位時間の学習が繋がっていくことを意識させる。
- 生徒とのやり取りの中で、学習課題を設定することで、課題を明確にするとともに、課題解決に向けての意識を高める。

学習のつながりを意識させるための既習事項の想起

- 学習課題解決のために、既習事項のどのようなことが生かせるかを想起させることで、学習のつながりを意識させる。

単元の流れの提示

- 既習事項に関する生徒の発言を整理し、単元全体の流れをまとめることで、学習の見直しをもたせる。

振り返りの工夫

- これから「どのような活動を通して、資質・能力を身に付けていくのか」、「頑張りたいことは何か」を振り返ってまとめさせることによって、見直しをもって単元全体の授業に取り組めるようにする。

指導例：『字のない葉書』（第2学年 第3時）

1 本時のめあてをつかみ、見通しをもつ。

○振り返りシートを読みながら、前回学習したこと、自分ができたこと、またうまくできなかったことなどを確認し、本時の見通しと学習に対する意欲をもつ。

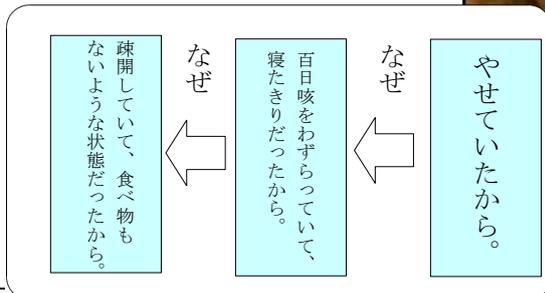
めあて 父の行動から問いを作って読み進め、父の心情を考えよう。

2 個別に課題を追究する。

○「何も言わなかった」「はだして表へ飛び出した」「声を上げて泣いた」という父の行動について、問いを用いて叙述から行動の根拠を読み取る。

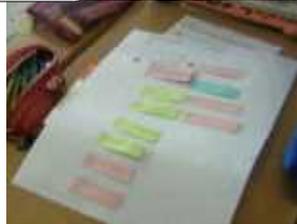
○「なぜ」を繰り返して読み取った叙述から父の心情を解釈していく。

* 妹の様子を表す叙述の読み取りから、父の心情を解釈していく。(赤の付箋)



3 集団で追究する。

○個で読み進めた根拠となる叙述やその叙述から考えられる解釈について、読み取った叙述のつながりを意識しながら、父の心情について話し合う。



4 本時のまとめ・振り返りを行う。

まとめ 問いを用いて、叙述を読み深めると、登場人物の心情が捉えやすくなる。

☆父の行動について「なぜ」を使って読み進めると、妹のことになっていくが、それが全て父が泣いた理由につながっているのが分かった。
☆同じ行動に着目して読み進めても、読み取る叙述が違ったり、同じ叙述を見つけても解釈が違ったりしたので、父への解釈が広がった。

二時題目
◎「学んだこと・できるようになったこと」
◎「話し合いで気づいたこと」
◎「難しくなかったこと・できなかったこと」
始めは父について考えていたつもりだったが、だんだん妹のことが全部お父さんが泣いた理由とつながり、妹のことを言っていたお父さんが、同じ行動でも全く違う解釈が生まれやすくなった。

指導のポイント

学習内容を明確にするためのめあての設定

○振り返りシートを読み直し、前時の学習（なぜを使って読み取りをしていく）を確認させることで、生徒自身に本時のめあてをつかませたり、本時の課題に見通しをもたせたりする。

主体的に読みを進めるために言語活動の工夫

○同じ手立てで繰り返し読み取りを進めていくことで、本時の活動に取り組みやすくするとともに、読み取れた叙述の数やつながり方、また解釈の仕方など前回と比較することによってスキルアップを実感しやすくする。

叙述を基にした解釈の意識化

○叙述と解釈を視覚化することによって、なんとなくではない、叙述と解釈を明確に意識した読み取りができるようにする。

効果的に話し合いを進めるための工夫

○読み取ったことを付箋に書かせることによって、話し合いの際に、付箋を操作して、意見を組み合わせたり、つながりを意識したりできるようにする。
例（青：叙述、赤：解釈）

振り返りの工夫

○「学んだこと・できるようになったこと」や「できなかったこと」等、学習のつながりが明確になるように1枚のワークシートに振り返りを記入していく。

指導例：『字のない葉書』（第2学年 第5時）

- 1 本時のめあてをつかむ。
 - 前時で解釈した筆者の父に対する思いを確認する。
 - めあてをつかむ。

めあて 学習後の感想を読み比べて気づいたことや考えたことを話し合おう。

- 2 学習を終えての感想を書き、初発の感想と読み比べる。
 - 本時の感想を初発の感想とを読み比べ、学習前後の読みの変容に気付く。

- 3 単元で学んだことを確認し、一般化して理解する。
 - 文章読解において、どのようなことができるようになったかを考える。

T：感想に変容が見られたのは、なぜだろう。
 S：一人（父）の人物に着目し、人物像を読み取ってきたから。
 S：叙述を根拠にした解釈もできるようになったな。
 S：父の心情や言動を場面ごとに比較して、相違点に着目できたのがよかったのかもしれないな。

T：今回できるようになったことは、これから物語文を読む学習で更にうまくできようにしたり、読書などの日常生活に生かしていけたりするとよいね。
 S：叙述と解釈を意識して読み取りを進めていこう。
 S：この前のキャリア教育講演会でも、仕事を選ぶきっかけは、「なんで〇〇なんだろう」と考えたことだと話していたな。「なぜ」と考えることは大切だな。

- 4 単元全体の振り返りをする。

まとめ 「なぜ」を使って叙述に即して読み取ったことを基に、心情などを解釈し、人物像を考えることで、随筆においては筆者の思いに迫ることができる。

○単元全体で学んだことと、今後どのような学習やどのような場面で生かせるかを自分の言葉でまとめる。
 ☆次に物語を読むときは、「なぜ」を自分で意識して読み取りを進め、根拠を叙述から探した上で解釈をしていきたい。
 ☆心情を読み取ったり、人物像を考えたりはできたので、場面ごとの心情の変化やギャップから、その文章に込められたテーマを考えられるようにしたい。

指導のポイント

学びの自覚

○初発の感想と、登場人物の人物像や随筆に込められた思いを学習した後の感想を読み比べることで、叙述を中心とした感想から解釈に対する感想への読みの変容を感じられるようにする。

単元を通じた学びの共有

○隣同士や班で、初発の感想と学習後の感想を読み合う活動を取り入れることで、自身の変容だけでなく、多様な考えに気付くようにする。

学んだことを一般化するための工夫

○単元全体を振り返りながら、身につけた資質・能力が今後どのような場面で生かせるかを考えることで、本単元の学習がここで終わるのではなく、次の単元での学習で、叙述に着目することや内容を解釈することなど、学びがつながっていくことをイメージできるようにする。

単元全体の振り返り

○全体で学習をまとめた後、個で時間を取って、自分の言葉で自分なりに学んだことやこれから生かしたいことをまとめることで、学習してきたことを整理できるようにする。

国語科学習指導案

平成30年6月 第2学年 指導者 橋本 朋彦

I 単元名 関わりの中で「字のない葉書」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。

【知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項エ】

(2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

【思考力、判断力、表現力 C 読むことイ】

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに言語感覚を豊かにし、読書を生活に役立てようとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

III 目 標

登場人物の言動から心情を読み取る活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。

(1) 随筆には筆者の思いが表されていることを知り、自分の考えを広げ、読書に生かすこと。

【知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項エ】

(2) 登場人物の行動から心情を読み取り、人物像を解釈すること。

【思考力、判断力、表現力等 C 読むことイ】

(3) 父に対する筆者の思いを想像し、叙述に沿った読み方を今後の読書に生かそうとすること。

【学びに向かう力、人間性等】

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／5）

1 ねらい 「字のない葉書」を読んで単元の課題を捉えさせることで、課題解決に向けての意欲が高まるようにする。

2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

1 教材文と出会い、単元の課題を設定する。（30分）

- 随筆文についての既習事項を確認する。
- 教材文の範読を聞きながら中心人物は誰かを考えさせることで、課題へとつなげる。
- 生徒の発言を生かしながら単元の課題を設定することで、今後の学習に向けての意欲を高める。

単元の課題 随筆に込められた筆者の思いを考えよう。

2 めあてをつかむ。（3分）

めあて 学習課題を解決するために、これからどのようなことを読み取っていけばよいかを考えよう。

- 既習事項を想起させることで、筆者の思いを考えるために、父についてどのようなことを読み取っていけばよいかを考えさせる。

3 学習の見通しをもつ。（9分）

- 生徒の既習事項に関する発言を基に、これからの学習の流れを整理し、今後の学習活動を確認することで、見通しをもたせる。
- 本文を通読させ、初発の感想を書かせる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。（8分）

- 「字のない葉書」でどのような学習をしていくのか、また、どのようなことを学びたいかを振り返りシートにまとめさせる。
- ☆これから「父」に着目して、人柄や心情を読み取っていきながら、父の人物像を自分の言葉でまとめられるようにしていくことが分かった。
- ☆父に関する叙述に着目して、人物像を考えていきたい。

学習の見通しをもち、今後の学習に意欲をもっている。＜振り返りシート（3）＞

V 本時の展開 (3/5)

- ねらい 妹が帰ってきた場面で「父」の行動に着目し、問いの視点をもって読み深めたり話し合ったりする活動を通して、父の心情について考えることができるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(3分)</p> <p>○振り返りシートを読み、前回学習したこと、自分ができたこと、うまくできなかったことなどを確認し、本時の見通しをもつ。</p> <p>○本時のめあてを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>めあて 父の行動から問いを作って読み進め、父の心情を考えよう。</p></div>			
<p>2 課題を追究するために個で考える。(15分)</p> <p>○「何も言わなかった」「はだしで表へ飛び出した」「声を上げて泣いた」という父の行動について問いを作り、叙述からその問いの答えを読み取るように促す。</p> <p>○読み取った叙述を根拠にして、父の心情を解釈していく。</p>			
<p>3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。(25分)</p> <p>○話合いのポイントとして、父の行動の理由について説明する際、必ず本文の叙述を根拠として伝えるよう促す。</p> <p>○班での確認ができれば、班の意見を全体で共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>父の行動から読みを深め、子供を大切に思っている父の姿を記述したり、発言したりしている。<ワークシート・発言(2)></p></div>			
<p>4 本時のまとめ・振り返りをする。(7分)</p> <p>○「学んだこと・できるようになったこと」「話合いで気付いたこと」「できなかったこと」など、授業を通して学んだことや考えたことを振り返るよう促す。</p> <p>☆「照れ性」で「厳しい」父が人前で声を上げて泣くなんて、普段表にはなかなか出さないけれど、本当に家族思いなのだということが分かった。</p> <p>☆父親の行動に対する解釈が違って、同じ叙述に行き着くこともあるのだな。どの解釈でも行き着く叙述は、大切な叙述だな。</p>			

V 本時の展開（5／5）

- ねらい 「父」に対する私の思いを振り返りながら本文を読み直し、感想を書く活動を通して、他の文学作品にも読み取り方が生かせることに気付くことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（5分） ○「父」に対する私の思いを振り返らせる。			
めあて 学習後の感想を読み比べて気付いたことや考えたことを話し合おう。			
2 単元で学んだことを確認する。（20分） ○今まで読み取ったり考えたりしてきたことを踏まえながら本文を再読し、感想をまとめさせる。 ○本時の感想と初発の感想とを読み比べ、学習後の変容に気付かせる。 ○ペアで読み合わせ、自分の感想と友達の感想を比べることで考えを広げる。			
今まで読み取ったり考えたりしてきたことを踏まえて、感想をまとめている。 <ノート（2）（3）>			
3 学んだことを一般化して理解する。（10分） ○文章読解において、どのようなことができるようになったかを確認する。 ○問いをもって読み進めることで、根拠を叙述に求めながら読み深められることを振り返らせ、学習内容の定着を図る。 ○読み取る際には、根拠や理由を明確にすることが大切であるということに気付かせる。			
4 単元全体の振り返りをする。（15分） ○単元全体で学んだことを自分の言葉でまとめさせるとともに、今後それをどう生かしていきたいかを具体的に書くよう促す。 ☆「なぜ」を繰り返して読み取った後の「父」の人物像と、最初に話を聞いただけの人物像では差があった。深く読むことは大事だと分かった。 ☆問いをもって読み進めると、根拠を本文の叙述から見付けられるということが分かった。			

指導計画 中学校国語科 第2学年 単元名 関わりの中で「字のない葉書」(全5時間計画)

目標	登場人物の言動から心情を読み取る活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。 (1) 随筆には筆者の思いが表されていることを知り、自分の考えを広げ、読書に生かすこと。 【知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項エ】 (2) 登場人物の行動から心情を読み取り、人物像を解釈すること。 【思考力、判断力、表現力等 C読むことイ】 (3) 父に対する筆者の思いを想像し、叙述に沿った読み方を今後の読書に生かそうとすること。 【学びに向かう力、人間性等】		
評価規準	(1) 目的に応じて、話の形態や展開の違いがあることを理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)】 (2) 登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解している。 【C読むことイ】 (3) 読書を生活に役立てようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】		
過程	時間 ○ねらい 〇めあて	☆振り返り(意識)	◇評価項目 〈方法(観点)〉
つかむ	1 ○「字のない葉書」を読んで単元の課題を捉えさせることで、課題解決に向けての意欲が高まるようにする。 随筆に込められた筆者の思いを考えよう。 単元の課題を解決するために、これからどのようなことを読み取っていけばよいかを考えよう。	☆「父」に着目して心情を読み取っていきながら、父の人物像を自分の言葉でまとめていくことが分かった。 ☆随筆に込められた筆者の思いは、どのような思いなのか、しっかり読み取っていききたい。	◇単元の課題がつかめている。 <振り返りシート(3)>
追究する	1 ○回想場面での中心人物の言動に着目させることで、その人物の心情の根拠となる叙述に気付くことができるようにする。 第一場面から読み取れる中心人物の二つの姿について、問いを作って読み取ろう。 1 ○妹が帰ってきた場面で「父」の行動に着目し、問いの視点をもって読み深めたり話し合ったりする活動を通して、父の心情について考えることができるようにする。 父の行動から問いを作って読み進め、父の心情を考えよう。 1 ○父の心情や言動を比較しながら人物像を捉え、筆者が何十年もの思い出の中から二つの場面を挙げた理由について話し合う活動を通して、優しさの程度の違いに気付かせ、筆者の父への思いについて考えられるようにする。 二つある回想場面の父の心情や言動を比較して、筆者が二つの場面を取り上げた理由を考え、伝え合おう。	☆普段の「父」と手紙の中の「父」とでは、差があることが分かった。 ☆一人の心情を考えるのに、いろいろな叙述から理由が見付けられるのだな。 ☆「照れ性」で「厳しい」父が人前で声を上げて泣くなんて、普段は表に出さないけれど、家族思いなのだということが分かった。 ☆私は、娘に厳しく、かんしゃくを起こす父親が、実は子供思いであることを見せないようにしていただけだと、父親に尊敬の念をもっていると思う。	◇父の心情の根拠となる叙述を読み取り、記述したり発言したりしている。 <ワークシート・発言(2)> ◇父の行動から読みを深め、子供を大切に思っている父の心情を記述したり発言したりしている。 <ワークシート・発言(2)> ◇二つの回想場面の父の違いを比較し、筆者の父への思いについて考えられている。 <ワークシート・話し合い(2)>
まとめる	1 ○「父」に対する筆者の思いを振り返りながら本文を読み直し、感想を書く活動を通して、他の文学作品にも読み取り方が生かせることに気付くことができるようにする。 学習後の感想を読み比べて気付いたことや考えたことを話し合おう。	☆「なぜ」を繰り返して読み取った後の「父」の人物像と、最初に話を聞いただけの人物像では差があった。深く読むことは大事だと分かった。 ☆問いをもって読み進めると、根拠を本文の叙述から見付けられるということが分かった。	◇今まで読み取ったり、考えたりしてきたことを踏まえて、感想をまとめている。 <ノート(1)(3)>